

漁村集落における子どもの遊びの変遷について
-福島県いわき市豊間を対象として-

21218001 相場明優美
指導者 葉袋奈美子 准教授

子ども 遊び 漁村集落
豊間 ヒアリング調査

1. 研究の目的と方法

子どもの遊び要素である「空間」「方法」「時間」は経済の発達などの様々な要因により大きく変化し⁽¹⁾、特に現在は TV ゲーム等の普及により外遊びの減少が見られる。本研究は漁村集落を取り上げ、遊びの「空間」「種類」を通じた遊びの変遷に関する調査と分析を行い、遊びを通して地域らしい暮らしについて考えることを目的とする。

研究方法は福島県いわき市豊間に居住している多世代を対象にヒアリング調査を行った(計 18 人)。対象者の小中学生時代、または対象者の子どもの小中学生時代遊びの内容に着目した遊びの変遷、生活実態を明らかにした。また、遊びが行われた場所を地図上で確認しながら土地の状況や周辺環境の様子について確認を行った。

2. 調査対象地区の概要

福島県いわき市の豊間は海岸線 2km の南北に弓なりの美しい海岸線が続く、地区東部の太平洋沿岸を除き三方を山に囲まれた広さ 66ha の半漁半農、観光、水産加工を中心とし、気候は東北の中でも温暖であり、集落の行政区は土地や基金など財産を共有している地域で、隣組はほぼ全ての世帯が加入し相互扶助的な生活が営まれる自治意識が強い地域である。⁽²⁾ 漁業は明治の初めから営まれており 1951 年に県の第 2 種漁港となり係留施設の整備が実施され、1965~1970 年代に漁業のピークを迎えるが自然的・人為的影響から 1970 年以降は定置網の不漁が続くと徐々に衰退し、1996 年に定置網漁が終了する。

集落は山間部から始まり徐々に海側に住宅が増え、昭和 5 年に国有地だった海沿いの松林の土地を払い下げ住宅地として開発を始めた。払い下げ後豊間の所有であっ

た土地をいわき病院建設のため国に寄与をした。当時は交通手段が未発達であり、いわき病院のお見舞いに訪れた人のために病院の近くに宿泊所が出来たが、徐々に交通手段が発達したことで宿の需要が減り、後に豊間やその周辺に出稼ぎにきていた人の貸家となり、徐々にそこに人が住み始めた。貸家の裏にあった小高い山(須賀山)は人工的に徐々に削られ消失した。1971 年に豊間海水浴場が開設されると夏は遠方から人が訪れるようになった。1978 年には諏訪川橋が整備された。

3. 遊びの種類の分類の変遷

子どもの頃の遊びについての調査から 3 つの年代¹の様子を把握することができた。表 1 はヒアリング調査から抽出することが出来た遊びを 7 つに種類によって分類したものである。変化について以下にまとめる。

(1)自然素材・生物 ①・②・③ : 戦前後期、漁業最盛期は家族が漁業・水産加工業に従事していたり、お手伝いとして子ども自身がわかめを砂浜に干したりと子どもにとって海が身近な存在であったが、経済転換期になると不漁が続く漁業に従事する人が減少したことで海の存在が遠くなっていったため砂浜や港、磯場の遊びが減少した。またきのこや栗など食べる目的の採集遊びも戦前後期は多くみられたが徐々に減少した。さらに戦前後期は釣りをするためのエサを店で購入したりはせずに沼でカエルや蚯蚓を採集したり、釣りのための竿を山の竹を採集し加工するなどの自ら作り出す自然遊びが見られたが、経済転換期では見られなかった。

(2)玩具 ④・⑤ : 戦前後期、漁業最盛期は遊びのための道具は人形遊びやバドミントンと数が少なく、缶けり、ビー玉遊び、面子と言った身近な道具や米袋での草

表 1 遊びの種類の分類 ヒアリング対象者に子どもがいた場合子どもの遊びの様子も伺ったため合計が 23 人(n=23)となった。

分類	①自然(内)	②生物(外)	③自然(外)	④玩具(内)	⑤玩具(外)	⑥無し(内)	⑦無し(外)
戦前後期 (n=8)	数珠遊び	メジロ採り 蜻蛉釣り 蚯蚓採りかぶと虫採り 採食海 川 磯	鉢作り 草そり 薪割り 団栗拾い 川遊び 竹とり 笹舟作り 笛作り 採食 若布 タラの芽 きのこ カキ あんず いちご あけび 栗	人形あそび お手玉 おはじき 紙人形遊び	竹馬 バドミントン 羽根つき 野球 ソフトボール 縄跳び 面子 ビー玉遊び ゴッコ遊び フットベース お弾き 缶けり	紙芝居 女相撲鑑賞 ¹	かくれんぼ ゴッコ遊び ラジオ体操 陣取り合戦
漁業最盛 (n=11)	お手玉	メジロ採り うなぎ採り すずめ採り カエル採り 蝶蝶採り 鳩飼 採食海 川 磯	石けり 砂滑り 石集め ターザン 化石堀り 草花遊び 砂玉壊し 花冠 貝殻拾い 小屋・基地遊び 筏下り ² 採食 しらす 葡萄 砂若布 あけび	人形あそび お手玉 あやとり	缶けり ビー玉遊び 面子 はね輪 野球 フットベース ソフトボール バレーボール ゴッコ遊び 自転車乗り		駅伝ジャンプ かくれんぼ あやとり ダルマさん転んだ パパアライセン ³ けんけん ゴッコ遊び ボディーボード
経済転換 (n=4)		磯遊び 川釣り 蜻蛉釣り	木登り 秘密基地 雪そり 団栗拾い	手芸 人形遊び ゴッコ遊び TVゲーム ゲーム遊び	雪そり 花火 野球 絵描き 自転車乗り フットベース ソフトボール ドッチボール		戦争ごっこ かくれんぼ マラソン コロリ鬼 鬼ごっこ

¹ 全国を巡業している女相撲の鑑賞 ² 小さいサイズの筏を作り流す ³ 陣取り合戦に更に独目ルール加えた遊び

そりといった身近な道具で工夫して遊びに利用されていた。経済転換期は遊びのための道具が増え子どもたちの中で伝わり積み重ねて発展した遊びのあやとり、お手玉などの遊びは減少したことで TV ゲームなどの受容的な遊びが増加した。各年代を通して野球などボール遊びは共通して遊ばれていた。

(3)道具を伴わない ⑥・⑦ : 各年代を通して大幅な遊びの変化は見られなかったが、漁業最盛期は海沿いに漁業・水産加工業に従事する親を持つ子どもが宿であった貸家を集って居住し同年代の子どもがいたため他の年代に比べて豊富な遊びが見られた。

4.遊び空間の分類の変遷

表 2 は遊び空間を 9 項目に分類をし、空間構成の特徴と空間での主な遊びをまとめたものである。空間ごとの変化の仕方について 2 つに分類することができた。

(1)遊ぶ空間の減少・変化 : i ~ viii の 8 つの空間は戦前後期、漁業最盛期には大きな変化は見られなかったが、経済転換期に入ると遊ぶ空間の減少・変化が見られた。

i)家の周り・道 : 戦前後期に比べ漁業最盛期、経済転換期は地面はコンクリートの使用で変化が見られたが、それよりも意識・遊びの種類の変化が見られた。

ii)海・砂浜 : 経済転換期になると子ども会の出現により子どもだけの海や砂浜の出入りを制限されるようになった。それに伴い海は②④⑥、砂浜は⑥⑦が減少した。

iii)川・沼・畑 : 経済転換期になると川での遊びは海に近づき⑥が減少した。沼での遊びは漁業最盛期に出現のちに消失したため、⑦が減った。畑での遊びは釣りのためのエサの採集をしなくなったため⑦が減少した。

iv)丘陵 : 経済転換期になると丘陵での遊びの範囲は一気減少した。集落から離れた丘陵には意識の変化・生活の変化により行かなくなった。

(2)遊ぶ空間の集中(出現) ix の広場は 8 つの空間と異なり、人が定めた空間や人工的に整備された空間である。戦前後期に砂浜での遊びや室内での道具を利用した遊びが増加集中した。

5.地域特有の地形を利用した遊びの変遷

図 2 は地域特有の地形(表 2: i ~ vi)

それ以外(表 2:vii ~ ix) の 2 つに分

けたグラフである。図 2 から各年代を通して徐々に地域特有の遊びが減少し

ていることがわかった。特に戦前後期の地域特有の遊び総数のうち 35 種類と過半数以上、漁業最盛期には地域特有の遊び総数のうち 34 種類とほぼ過半数を占めている。対して経済転換期の諏訪川橋の整備や豊間海水浴場開設での地域外来訪者や安全面による子どもの遊びの制限などにより遊びの総数 46 種類のうち 8 種類とそれ以外に比べて全体の 1/5 程度になった。

6.まとめ

本研究を通して遊びは時代とともに「種類」は自然遊びと道具の入手方法の変化による減少、「空間」は人による制限や整備による空間が変化し、地域特有の地形を利用した遊びが減少し、地域に関わること無く出来る遊びの増加傾向が見られることがわかった。地域特有の地形を利用した遊びが減っていくと遊びを通した地域に愛着も持つ機会・地域らしい暮らし理解する機会が失われてしまうのでは無いだろうかと考えられる。今後地域特有の地形を利用した遊びの充実のための工夫が今後望まれる。

【参考文献】

(1) 仙田満「環境デザインの方法」彰国社 1998 年 p246, 251, 252
 (2) 佐藤俊一「いわき豊間地区協議会の地域主体の復興まちづくりの取り組み」建築雑誌 vol.128 No.1642 2013 年 3 月
 (3) 仙田満+上岡直見「子どもが道草できるまちづくり通学交通問題を考える」株式会社学芸出版 2009 年 p14, 89
 (4) 具志堅なつき・長田愛子・清水肇「南風原町喜屋武集落の戸外遊び空間の変遷-沖縄県南風町における集落空間変容に関する研究その 2」日本建築学会学術講演梗概集(北陸) 2002 年 8 月
 【註釈】
 1 年代を以下のように 3 つに区分する。1940~1950 年代前後を「戦前後期」、1960 年代~1970 年代前後を「漁業最盛期」、1980~1990 年代前後を「経済転換期」

図 1 時代ごとの遊びのプロット

	i 海	ii 川	iii 沼	iv 畑	v 砂浜	vi 丘陵	vii 家の周り	viii 道	ix 広場
戦前後期	「磯・港・浜続き」種類:②④⑥⑦	海側~山の奥までできている種類:⑥⑦		種類:⑦	種類:⑥⑦	ケモノミチ種類:⑥⑦	土種類:②③④	土・砂利種類:②③④⑥	
漁業最盛	「磯・港・浜続き」種類:②④⑥⑦	種類:⑥⑦	沼の出現種類:⑦	種類:⑦	種類:⑥⑦	ケモノミチ・須賀山の消失 種類:⑥⑦	土・コンクリート種類:②③④	土・砂利・コンクリート種類:②~④⑥	海側広場を「球場」利用 種類:②④
経済転換	自由な海への出入りが禁止(種類)⑦→②④⑥の遊びの減少	海に近い川側に遊びが寄っている(種類)⑦→⑥の遊び空間の減少	沼の消失(種類)なし→沼遊び(⑦)の消失	(種類)なし→⑦の遊びの減少	「奥行き」の減少、自由な出入りの禁止(種類)なし→⑥⑦の遊びの減少	ケモノミチの消失(種類)⑥⑦→遊びの数の消失	土・コンクリート(種類)②④→③の遊び空間の変化	土・砂利・コンクリートの利用(種類)②④⑥→③の遊びの減少	整備された「広場」の利用(種類)②~④→③の遊びの出現